

③郷土料理で昼食

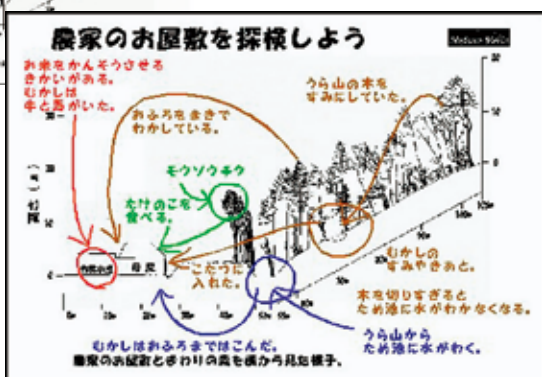
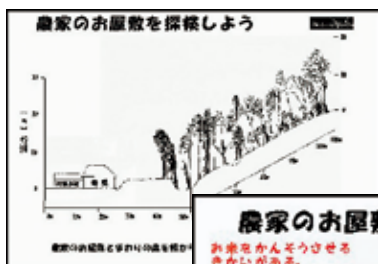
- ・実施地域で収穫された食材を用いた郷土料理を準備する。地域の方々を招待して、参加者と一緒に昼食をとり、交流を深める。
- ・稲刈りの感想を発表したり、水田や自然について感じた疑問を地域の方々に尋ねたりする。
- ・地域の昔話や暮らしのお話をうかがい、伝統的な生活様式を知るためのお屋敷探検活動について興味を高める。



④お屋敷探検

農家の方々の案内のもと、以下のポイントを考慮しながら探検活動を行う。ワークシートに気づいたことを記入する。

- ・背戸山（母屋の背後に位置し、日常的に生活と関わる森や斜面）から湧き出す清水の利活用
- ・背戸山や屋敷林（いくね）、竹林の樹木の利活用や管理方法
- ・製炭の設備や道具
- ・自家製の農具や日用品など
- ・栽培されている山菜や薬草
- ・馬や牛の役割と農業の変遷
- ・四季それぞれの農作業や行事
- ・野生動植物との触れ合い



- ・ワークシートに、水や生活物資の移動や変容（利活用の実態）を具体的に書き込む。
- ・里山の伝統的な暮らしに関わるさまざまな施設や道具などを見学させていただきながら、資源循環型社会の生活様式について、イメージを深める。

学習概要

自然との共生

4. 学習のまとめ

- ・参加者全員が車座になった後、土地利用絵地図やワークシートを見返しながら、一連の活動をふり振り返り、地域の方々に気づきや思いを伝える。次に、全員で以下の3つの活動を行い、学びを総括する。
 - ①里山が、多様な動植物と自然環境のパッチワークとから構成されていることを認識する。
 - ②稲刈りや郷土料理を思い起こして、お米や野菜が収穫されるまでの伝統的な営みを、農家の方々の苦労や愛情をも考慮しながら整理する。
 - ③燃料や建材、山菜、湧水などの多様な資源の存在と利活用の実態を整理し、背戸山と日常生活の強い結びつきから資源循環型の暮らしについて関心を深め、大量消費型の都市生活を客観的に見つめ直す。

追加・変更できる学習内容	マップづくりや壁新聞づくり、学習発表会といった取り組みに発展させることが可能。また、探求活動を構成するモジュールを分離・再編して実施することも可能。
事前・事後学習についての助言	本プログラムの導入に先立って、既往のカリキュラムや学習内容とうまく連携が図られるように配慮いただきたい。また、野外学習の実施を希望する地域を設定済みであれば、そこでの事前調査や学習プログラム再編を支援することも可能。
雨天時の学習内容	野外学習については雨天中止、もしくは延期
プログラムの詳細	http://www.feel-sendai.jp/program/minori.html